

北陸農政局事前評価技術検討会（第 1 回） 議事概要

1 日 時：令和 7 年 6 月 11 日（水） 9：30～12：00

2 場 所：石川県教育会館 第 1 会議室

3 対象地区：阿賀野川左岸地区

4 委 員：上澤 聖子 一般社団法人 朝日町観光協会 (WEB)
瀧本 裕士 石川県立大学
根岸 睦人 新潟大学 (WEB)
浜野 剛 富山新聞社
松本 恵子 甲武信ユネスコエコパーク推進協議会 (※)
(五十音順)

※当日欠席のため、会議後に議事録等を送付した上で意見聴取を実施。

5 議 事：

北陸農政局事前評価技術検討会（第 1 回）を開催し、令和 8 年度事業着手予定地区である国営かんがい排水事業「阿賀野川左岸」地区について、評価結果（案）及び効用について審議した。

質疑応答の概要は以下のとおり。

（委 員） 本事業の効果として、農地の集積・集約を進めるという狙いがあると思うが、農政局側として何かアプローチはされているのか。評価期間が 59 年としているが、感覚的にはあまりにも長いと感じている。約 60 年後どうなっているか、気候や社会情勢など様々なことについて、どのように評価しているのか。最後に、この地区が新聞やマスメディアでニュースや記事などで、どの程度露出されているのか。

（農政局） 集積・集約については、農政局が関係市、農業委員会や JA と連携して、将来に向けての集積計画を作成して事業を開始することとしている。事業実施中もこのメンバーで集積率の現状について確認しつつ、各機関が目標達成に向けてその時点で取り組めることを考えて実施していくこととしている。

評価期間について。今回の総費用、総便益費という費用対効果の算定手法が改定される際に、どのような評価期間が良いのかシミュレーションしており、40 年以上の期間で評価しても結果に大きな差がないことから、現在の「工期＋40 年」が設定されている。また、評価期間が長くなれば、農業情勢も変化していくが、事業費や農産物単価の増減を加味した感度分析という手法も用いて評価を行っている。

続いて、マスメディア等への露出について。農政局としては来年度着工という形で左岸地区の公表はしていない。信濃川水系土地改良調査管理事務所が

発行している広報誌では阿賀野川左岸地区の調査経過等について公表している。

左岸地区が来年から着工するといった報道は、把握している限りではない。

一般的には、着工の準備が整えば、8月末に農林水産本省から来年度着工予定地区が公表されるため、その際に報道される可能性はある。

また、関係首長等から構成される推進協議会で事業着工要望決議を行う予定であり、この内容が報道によって公表されることもある。

(委員) 1点目、本地区は、ほ場整備等との連携がすごく重要な意味を持っていると思われることから、ほ場整備事業の進捗状況はどうなっているのか。また、本事業地区とほ場整備の両者の進行の中でこの事業の効果や意義がどう共有されているのかについて説明いただきたい。

2点目、今回の左岸地区の効果算定で使用されている費用の中で阿賀野川頭首工の再整備費が大きく見込まれており、本事業と阿賀野川用水事業（阿賀野川頭首工）との効果算定の違い又は関係について説明願いたい。

(農政局) 関連事業の県営ほ場整備については、5地区のうち4地区は既に着工している。残る1地区は今後新規着工を予定している。本地区は令和26年度までの工期であり、事業期間中に同時進行していくこととなる。

(農政局) 事業の効果について説明する。計画段階においてはほ場整備の工期を設定しており、効果については整備完了時点で100%効果が発現することとしており、段階的に整備の進捗に応じて効果額が発現するよう計上している。

2点目について、阿賀野川用水地区と、本地区は事業目的が異なることから事業としては切り分けてそれぞれの効果として計上し評価している。一方、同時期に国営事業として着工しており、それぞれの費用の整合性を図るというために阿賀野川用水事業（阿賀野川頭首工）でかかる費用のうち、左岸に係する費用について再整備費として計上している。

(委員) 1点目に関して、今回の効用の中ではほ場整備の進捗によるほ場整備自体からもたらされる効用の変化のようなものは、組み込まれているのか。また、ほ場整備が完了するまでには時間がかかると思われるが、どのように考慮されているのか。

(農政局) ほ場整備の進捗に応じて効果が発現するよう算定している。一方、農業用水が供給されることによる農業生産の効果は、既存の施設により既に発現しており、それは一定で発現しているように計上している。

以上